犯罪防止協力賞

「特定非営利法人しなの」

長野県遊技業協同組合／長野遊技場組合

近年社会問題化している子どもの車内放置事件や、ホール駐車場内での車上荒らし。これらの事件に積極的に対応するために、長野遊技場組合では『NPO法人しなの』を立ち上げた。専任スタッフによる巡回活動は、ホールだけでなく地域の学校やコンビニなどへもその活動を広げ、地域の安全・安心に貢献している。

防犯のためのパトロール隊がNPO設立のきっかけ

ホールでの事故や犯罪を未然に防ごうと長野遊技場組合がパトロール隊を発足させたのは平成15年（2003年）のこと。近年の犯罪増加などから、「自分の身は自分で守る」という考えと地域の安全・安心に寄与するために作られたそうだ。

パトロール隊発足当初は、各ホールで3人のスタッフに所轄の警察署長から委嘱状をもらいパトロールを開始、このことで防犯に対する意識も高まり、自ら安全を守るという強い自覚も生まれた。そのためか各ホールでも独自にパトロールを行うようになり、いろいろと効果もあったという。しかしホールごとの活動内容の違いや活動に対するスタンスの違いなどから、それぞれが同じようなレベル（意識）を持つのは難しかったそうだ。そのため、公共的な組織体制を確立し、恒常的に防犯活動を行い地域の安全・安心に寄与すべく、特定非営利活動（NPO）法人を立ち上げることとした。

すでに“安心・安全パトロール隊”を立ち上げて組合員ホールを中心にパトロールを計画的に行い、防犯活動に多くの実績を上げている、いわばNPO活動の先進県である隣接の群馬県遊協（金山茂理事長）、高崎遊技場組合（趙栄日組合長）を研修視察し、組織の立ち上げ等についてご教示をいただいた（群馬県遊協・高崎遊技場組合の皆様に深く感謝申し上げます）。

長野遊技場組合では、群馬県遊協等の視察結果を踏まえて、専任スタッフをおき、会員の当番ホールから一人出て、二人一組となり、青色パトロールカーに乗車し、広く防犯活動を行うことを決し、平成17年（2005年）6月、組織化された防犯活動を目指し、“NPO法人「しなの」”が設立されたのである。

「あくまでも事故や犯罪に対する意識向上が目的」

現在『NPO法人しなの』の活動は計画的に行われている。まず広大な長野市内を中心に4つのエリアに区切り、それぞれのエリアにホールを振り分け、青色回転灯を取り付けたパトロールカー（通称青パト）が、1日に2つのエリアを巡回する。これによりホールには2日に1度必ず青パトが立ち寄ることになる。広いエリアをパトロールする青パトは1日に70～120kmも走るという。青パトに乗り込むのは、専任スタッフ一人（日によっては二人）と、当番ホールから一人の計二名が約3時間かけて9～11店舗を巡回する。また『NPO法人しなの』の活動は青パトによる巡回だけでなく定期的に専門家を招いて防犯の講習会を開き、会員の防犯意識向上に努めているそうだ。

長野遊技場組合の組合長で『NPO法人しなの』の副理事長も務める竹内良美氏は「基本的に、犯罪者を捕まえることが目的ではないんです」と語る。あくまでも事故や犯罪に対する各ホールのスタッフの意識向上が大切で「そのために各ホールからスタッフを出してもらっているんです」とも語った。

今年の4月に組合の地域内で小学生に対するわいせつ事件が発生したこともあり、巡回コースはできるだけ小学生の通学路も回るようにしている。また竹内氏は「ホール駐車場内での子どもの車内放置事件も大変重大な問題で、われわれも巡回中に最優先で気を付けるようにしています。しかしそれだけではなく、地域の子どもたちや人々が安心して暮らすために何かできればと思っています」と、地域の防犯にも積極的に貢献していきたいとも話してくれた。

「地域の子どもたちが安心して暮らすためにわれわれも何かできればと思っています」

これからも防犯活動を地道に続けていきたい

まだ本格的な活動を始めて1年経っていないが、成果は徐々に表れている。今年に入って長野市内で起きた、高級車を狙ったパンク事件の犯人を見つけ通報したのは、駐車場を巡回していたホール従業員だ。また車の中に小学3年生の子どもが一人でいたところを発見し、お客様に注意を促すことができたのも青パトが発見したためである。最近は学校周辺だけでなくコンビニなどにも時間があれば巡回するようにしているという。ホールにおける防犯活動をきっかけとして、地域の防犯にも広がる『NPO法人しなの』の活動は、社会貢献の理想形だ。しかし、竹内氏は「まだまだ課題は山積みです」と言う。「犯罪を無くすことは不可能だが、できるかぎり減らしたい。これからも草の根防犯活動を地道に続けていきます」と強い決意を感じる口調で話してくれた。

お話を伺った方

長野遊技場組合
組合長　竹内 良美氏
謙遜しながら語る中にも、業界と地域防犯への強い責任感がうかがえた。

店舗駐車場の青パト、活動は計画的に実行

▲青パトに乗り込むのは、専任スタッフと当番ホールから一人の計2名。

1回に約3時間かけ丁寧に巡回

◀▲ホール駐車場に着くと一人は青パトから降りて駐車している車を1台1台チェック。

目立つパトロールスタッフ
背中にPATROL STAFFと大きく書かれた黄色いベストと紺の帽子を着用する。

店舗入り口横に“青パト警戒中”の立て看板
各店舗には青色回転灯付きの立て看板。回転灯は営業時間中は常に点灯。

青パト同乗記

スタッフが見せた、子どもたちへの温かい眼差し

実際に青パトはどのように巡回し、地域防犯に貢献しているのか。それを知るには、やはり同乗させてもらうのが一番。ということで、同乗させてもらいました。

平成18年（2006年）5月某日、午後1時半。①『スーパーライオンズ大豆島店』にて専任スタッフの唐木田さん、杉浦さんと対面。お二人とも、背中に“PATROL STAFF”と大きく書かれた黄色いベストに紺色の帽子をかぶり、一目でパトロール中だとわかる出で立ち。青パトの屋根に設置された青色回転灯もよく目立ちます。「それでは行きましょう」と促され、さっそく出発。まずは、長野五輪会場エムウェーブの向かいにある②『エクセル長池』へ。こちらの駐車場は2階建ての立体だ。到着するとすぐに、助手席の唐木田さんは車から降りて駐車中の車内を覗き込む、車内に放置された子どもが居ないか車上荒らしの被害は無いか確認しているとのこと。運転している杉浦さんは窓を開けエンジンがかかっている車がないかを確認していく。二人ともゆっくりと移動しながら1台1台チェック。すべてのチェックが終わると唐木田さんは店内に入り、店員さんと挨拶を交わし、巡回に来たということでサインをもらった。お次は、千曲川を渡って③『プラスワン』。ここは今年4月にオープンしたばかりだという。建物を取り囲むように駐車場が広がっている。店舗入り口の横には『NPO法人しなの』の**“青パト警戒中”という青色回転灯付き立て看板が目立っています**。ここでも、一人は外、一人は車で駐車場を巡回。お店の人に話を聞くと「巡回してもらって安心感があります。最近は子どもの事件が多いので、われわれもそういうことが起こらないように、普段から放送したり駐車場を巡回したりしています」と、防犯意識の高さには感心しました。

やがて青パトは長野駅前へ向かった。助手席に乗る唐木田さんは、道沿いのスーパーやコンビニにも目を光らせています。すると杉浦さんが「ちょっと横にそれますね」と細い道へ。どこへ行くのかと思ったら、そこには④小学校が。ちょうど下校時間だったので、近くの道には小学生が大勢歩いている。近づくと、こちらに気付き手を振ってくれる小学生も。窓を開けて「気を付けて帰るんだよ」と声をかける二人。青パトの存在は地域の子どもたちには、十分浸透しているようです。最後に専任スタッフであるお二人に、『しなの』の活動について伺うと、「子どもを守る活動に関われることが嬉しいです。微力ながら力を発揮したい」（杉浦さん）、「目に見える実績がないことがいいんです。そのためにやっているんですから。この車を見て悪いことをしようと思っている人がやめてくれれば最高ですね」（唐木田さん）と明るい笑顔で話してくれました。

専任スタッフの唐木田さん（左）と杉浦さん（右）

犯罪防止協力賞
—選考理由—

社会貢献活動審査委員会 委員　山下頼充氏

全国各地で幼児･児童を狙う凶悪な犯罪の増加が、大きな社会問題となっています。

地域の防犯活動を目的にしたNPO法人として長野県で初めて設立された「しなの」は、専用の防犯車両で小学校付近を重点的にパトロールし、地域の住民が安心して安全に暮らせるよう、積極的な街頭活動を展開しています。

長野県遊技業協同組合が中心となり職場や住民も巻き込み、少年非行の防止や犯罪減少に多大の効果をあげた活動が高い評価を受けました。平成17年（2005年）にスタートした「しなの」の活動が引き続き継続され、明るい街づくりにさらに貢献されることを期待しています。